



Flourishing identities

deep charm of Okinawa

群生する個性、
もう一步深い沖縄の魅力へ

vol.
01

おきなわ
未来構想力



沖縄県文化観光スポーツ部

個性豊かに、一人ひとりの想いを形に。

沖縄県では「世界から選ばれる持続可能な観光地づくり」を目指し、多彩かつ質の高い観光コンテンツの開発を推進しています。
こうしたなか、「沖縄観光コンテンツ開発支援事業」は、持続、発展、自走化に向けて、沖縄自らがもつ多様な魅力を活用した、コンテンツ開発の支援を行っています。

沖縄、この土地のたからものを
どのように伝え、守っていくか――

訪れるお客様とともに、たいせつな文化資源、地域資源を丁寧に活かし合っていくことが
持続可能な沖縄の観光の未来を育てます。

「沖縄観光コンテンツ開発支援事業」とは

本事業は、民間事業者等の実施する沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等）を活用した観光コンテンツ開発の支援を通じて、観光消費額の向上や滞在日数の延伸等、沖縄の抱える観光課題解決を図ることを目指しています。

補助対象事業者：

- (1) 観光関連事業やエンターテインメント事業等に取り組む民間事業者
- (2) 新たなユニークベニューやチームビルディング等のMICEメニュー開発に取り組む民間事業者
- (3) 地域観光協会、登録観光地域づくり法人（登録 DMO）、NPO 法人等

補助対象事業：

- (1) 沖縄のソフトパワー（歴史、自然、文化、芸能等の観光資源）を活用した多彩で付加価値の高い観光コンテンツ開発であること。
- (2) 観光消費額の向上や滞在日数の延伸等に繋がる取組であること。
- (3) 持続性及び発展性が見込まれ、自走化を前提とした取組であること。

支援内容等の詳細は、こちらからご覧いただけます。
<https://okicon.jp/>



主催者 沖縄県文化観光スポーツ部 観光振興課 098-866-2764



上) アドバイザーとの打ち合わせ 中) ファムツアーの実施風景 下) 支援セミナー

発行 沖縄県文化観光スポーツ部 観光振興課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
電話:098-866-2764
編集人 奥野俊志(株式会社アール・ピー・アイ)
編集協力 早坂妙子(株式会社ジャパン ライフ デザイン システムズ)
永田さち子
デザイン 須田 仁

2025年3月

本誌は沖縄県文化観光スポーツ部 観光振興課「沖縄観光コンテンツ開発支援事業」(令和6年度)の一環として制作しています。
本誌掲載の記事・画像・イラストの無断転載、複写を禁じます。

おきなわ未来構想力 ～その先の魅力をもとめて～

本事業の紹介ショートムービーをこちらでご覧いただけます。
(令和6年度版 約10分)



www.youtube.com/@okinawakankocontents



INDEX



本事業概要

3

ep01

地域愛から生まれた
ディープな街歩きツアー **【沖縄市・コザ地域】**

株式会社ファンファーレ・ジャパン

4

ep02

暮らしの魅力を活かした
地域密着型体験コンテンツ **【名護市・久志地域】**

株式会社ホット沖縄総合研究所

6

ep03

「うとぅいむち」で琉球伝統芸能の
継承と発展を目指す

一般社団法人
琉球伝統芸能デザイン研究室

8

ep04

ビーチクリーンは
SDGsなアクティビティ

沖縄ツーリスト株式会社
一般社団法人しまぬわ

10

ep05

クマノミの生態から
沖縄の海を学ぶ **【恩納村】**

ハイアット リージェンシー
瀬良垣アイランド 沖縄

11

ep06

伝統行事の体験で
沖縄の文化と精神を伝える

ティーアールビー・ジャパン
株式会社

12

ep07

祈りの原点に触れ
心身を整える **【南城市】**

一般社団法人南城市観光協会

13

ep08

琉球王国時代の“古”と“今”
を行き来する **【那覇市・首里地域】**

琉球ホテルマネジメント株式会社

14

令和6年度アドバイザーからのメッセージ

15

沖縄観光コンテンツ開発支援事業 [今号掲載コンテンツMAP]

16

一 造成事例一

もとぶヒューマンツーリズム / 株式会社沖縄美ら島フードサービス

琉球謎解紀行 in沖縄市 / 一般社団法人沖縄市観光物産振興協会

イルミーバンタ 海辺の夜あかり / バンタカフェ by 星野リゾート

沖縄泡盛ツーリズム / 沖縄県酒造組合

沖縄タマテ箱♪ トワイライトナイトエコノミー / 株式会社セルリアンブルー

誕生日は久米島で! 島まるごとBirth Dayツアー / FM久米島株式会社

伊平屋の自然・伝統文化・人×ウェルネス×SDGs / あいあいゆいまー株式会社 / アデリープランニング株式会社

大宜味村におけるブルーゾーン集落滞在 / 株式会社地域ブランディング研究所

メタバースを活用したファミリー向けの学習型観光 / 特定非営利活動法人うみもりそら

※本誌掲載のツアー内容や料金は2025年3月現在のものです。変更となる場合がありますので、最新の情報は各事業者にご確認ください。



沖縄市 コザ・ノスタルジックツアー

～シャッター街もまた新鮮！街全体をエンタメの舞台に～



かつて米兵向けの歓楽街として栄え、「B.C.ストリート」と呼ばれたパークアベニューを中心に、現役芸人のガイドがコザの街を案内。通りの柱1本1本に展示された写真で戦後80年の歴史をたどり、“泊まれるコザの歴史博物館”ともいえるホテル、戦後の資料展示、新旧が混在する飲み屋街などを巡る。ツアーの締めくくりには、伝説のライブハウスで本場のコザロックを体験。芸人によるガイドトークも楽しめるエンタメ性あふれるツアー。



基本情報

主催者：株式会社ファンファーレ・ジャパン
(沖縄県沖縄市中央2-6-47) 098-989-3969
エリア：沖縄市 コザ地域
タイプ：現地発着募集型ツアー
所要時間：約2時間
料金：5名40,000円～10名70,000円、15歳(中学生)以下無料
最少催行人数：5名(最大10名まで)
想定ターゲット：リピーター、通な沖縄ファン
URL：https://kozanosu.com/

ルート例【徒歩】

1

プレイヤーズカフェ集合

1999年、パークアベニューにオープンした“コザの顔”ともいえるカフェ。コザを紹介するテレビ番組「コザの裏側」の収録場所でもある。

2

パークアベニュー散策

1950年代から現在に至るコザの歴史をパネルで紹介。商店街の歴史の変遷が分かる。

3

トリップショットホテルズ・沖縄コザ室内見学

米軍人相手のキャバレーをリノベーションしたホテル。当時のコザにタイムスリップした感覚を味わえるスポット。

4

戦後歴史資料館 ヒストリート見学

戦後から日本復帰まで、アメリカ統治時代の物品や写真など、ここでしか見られないコザに関する資料を展示。

5

商店街の飲み屋街散策

多彩なカルチャーが交錯する場所として、地元の人や観光客に人気の飲み屋街。音楽、多国籍料理、地元の居酒屋とカルチャーが融合する場所。

6

ライブハウス CANNONライブ鑑賞

1960～80年代にかけて、オキナワロックの聖地として人気を博したライブハウスで本場のコザロックを鑑賞。

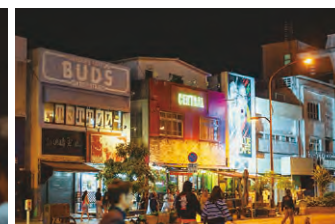
※BBQのオプションもあり。

※訪問順序は天候等により変更になる場合があります。

ノスタルジック・コザにタイムスリップ！

地域愛から生まれた ディープな街歩きツアー

戦後の1950～60年代、米軍基地関係者により空前の賑わいを見せたコザ。アメリカ文化の影響を受け独特の文化が根付いた街にその歴史と魅力を掘り起こし、芸人のガイドで“沖縄の深層部”に飛び込むツアーが誕生した。華やかな過去も、負の歴史も、ありのまま盛り込むことでコザでしか体験できない、唯一無二のコンテンツとなっている。



現役芸人で本ツアーのガイドを務めるわさび[具志堅さんと小だいらくん](写真中央)と、ファンファーレ・ジャパン代表の島袋武志さん(左)、取締役でプロデューサーの神山繁さん(右)。神山さんは沖縄市を紹介するテレビ番組「コザの裏側」のプロデューサーを10年以上にわたって務めるコザのキーマン。地元で活躍する芸人が街歩きを案内することで、よりエンタメ性を高めた。

愛すべきコザを元気に！ ローカルエンタメで街づくり

県

下第二の都市、沖縄市。中心市街地のコザは戦後、米軍基地の門前町として県内随一の賑わいを見せた。現在も夜になるとバーやカフェに英字のネオンサインが灯るが、昼間は人通りが途絶えたシャッター街も。このコザに街歩きツアーで観光客を誘致し、街の活性化を目指しているのが、ファンファーレ・ジャパン代表の島袋武志さんと神山繁さんだ。「空前の賑わいを見せた頃の来訪者は、ほとんどが米軍関係者。ところが時代が変わり、僕たちがカフェをオープンした1999年当時は最も寂しい時代でした」。

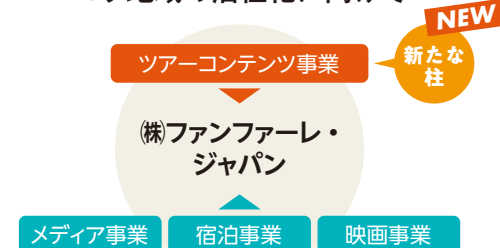
しかし、悪いことはかりではない。店舗の家賃が下がったことで若い世代が出店しやすくなり、個性的な店が増えてきた。このような状況のなか、神山さんたちは独自のアイデアで、街に賑わいを取り戻すための活動を行ってきた。カフェを拠点に、かつてキャバレーとして営業していた古い建物を活用したユニークなホテル事業、アーケード街のデザイン装飾やコザの歴史が分かるパネルの展示のほか、イベント、ワークショップなどを手がけたことも。活動のすべてが「コザの魅力を多くの人に

伝えることで、愛すべき街を元気にしたい」という思いから生まれたものだ。

「牛歩ではあるものの、一步一步進んできた実感があります。とはいえ、小さな会社でできることは限られていて、いまひとつ物足りなさがありました」。

ジレンマの中で知ったのが、本事業の存在。かねてから構想にあった、コザカルチャーをリアルに体験する街歩きツアーの実現をスピードアップできる可能性を感じたという。神山さんの呼びかけに賛同して加わったのが、県内のテレビ番組やCMを多く手がける放送作家のキャンヒロユキさん、沖縄映画界の第一人者で海外でも高い評価を得ている映画監督の岸本司さん。3人の仕掛け人により、

コザ地域の活性化に向けて



コザを拠点にメディア事業やエンターテインメント関連事業を手がける同社の新たな柱へ。より地域性の高い事業展開を目指す。

負の資産に向き合った 観光コンテンツが誕生

コ

ザの歴史を語るとき、戦争と米軍基地の存在を避けて通ることはできない。デリケートな部分はあるが、それらをひくくめるめた観光コンテンツとして、現在の街の魅力を発信できると神山さんは考えている。

「戦争がなかったら、基地がなかったら、今のコザはなかったでしょう。負の歴史を肯定するわけではないけれど事実として認め、リアルな世界観をアピールしていきたいですね」。

ターゲットは、リゾート地としての沖縄ではなく、コザの街そのものを目的に訪れるリピーター。モニターツアーでは、「街全体が劇場のように見えてきた」2回目、3回目の訪問が楽しみなになってきた」との声もあり、確かな手ごた

えを感じている。もう一つのテーマが、“Walkable”。コザの歴史を紹介するパネル展示を整備したのは、片道約450mのパークアベニュー。街の変遷をたどりながら往復すれば約1kmになる。人の往来が増えれば商店街が潤うし、歩くことによる健康効果もアピールできる。

本事業に参加したことで、これまで顔見知り程度の関係だった店舗やスポットに正式に協力のオファーができ、事業者同士として連携が図れたことも大きな収穫。ツアー催行が街全体の収益化に繋がるため、持続性のある事業として機運の高まりがあるという。

一方で、集客手段や運営、さらにはガイドを担当する芸人の人材確保や教育といった課題が残る。

「この事業には、地域の文化や個性を観光コンテンツ化している事業者さんが多いと聞きました。その内容や運営方法に非常に興味があります。また、僕らが得意なエンタメ性や映像分野を組み合わせた相乗的な新しいコンテンツが生まれるかもしれません。そんな風に他の地域の方々とも繋がる可能性を想像すると、ワクワクしますね！」と、期待を寄せる神山さん。今後はこのツアーを同社の主力事業として育てるために、さらなる磨きをかける。



地域が主役！

暮らしの魅力を活かした 地域密着型体験コンテンツ



ホット総研の翁長愛音さん(左)と上原由姫子さん。地域のNPO法人担当者とともに足しげく通い、徐々に信頼関係を築いていった。

地元の人たちの暮らしが、外の人には宝物のように輝きを放って見える。なぜならそこには農業、手仕事、伝統行事、さらには精神性といった、長い年月をかけて育まれてきた生活文化が凝縮されているから。そんな日常生活の観光コンテンツ化は、沖縄の深い魅力を引き出し、地域が主軸となった顧客との新たなパートナーシップを築いていくことに繋がりそうだ。



日常こそが
魅力あるコンテンツ！

名 護市の東海岸に位置する久志地域は、昔ながらの沖縄の景色と暮らしが今も残る場所。ここで地域の日常生活を体験するツアーを企画・運営しているのが、ホット沖縄総合研究所(以下、ホット総研)だ。担当の上原由姫子さんと翁長愛音さんに、本事業にエントリーした経緯を聞いた。

「ホット総研として、グループ会社であるカヌチャベイリゾートの宿泊客の地域への流入を強化するために、地域内で体験できる特別なコンテンツ造成の必要性を感じていました。また、久志地域では高齢化が進み、伝統行事の維持が難しくなっている現状があります。そこで観光で訪れる方も、地元の方も楽しみながら暮らしや文化を紡いでいく方法として、地域の人たちと一緒に作るツアーが浮かびました」と上原さん。

しかし、一つの企業が地域と一緒に becoming プロジェクトを進めていくことは決して容易ではない。そこで、大きな推進力となったのがNPO法人久志地域観光交流協会(以下、久志交)や、(株)わんさかの連携だ。久志交事務局長の江利川法孝さんは、13ある久志地域の集落の状況と暮らしを知り尽く

地元とともに楽しむことが
持続性に繋がる

案 内役をガイドではなく、ローカルパートナーと呼ぶ。ツアー内容は、パートナーの暮らしの一部を体験するもの。たとえば、集落の神事で神様を呼び起こすホラ貝吹きの役割を担っている宮城勇吉さんが担当するのは、「おしゃべりオジ」と集落さんぽ。宮城さんとゆんたく(おしゃべり)しながら集落の要所を巡り、静かなビーチでホラ貝の音に耳を傾ける。サポート役は、わんさかの大城さんがメインで担当。サブで久志交の江利川さん、ホット総研が

沖縄郷時間 久志の暮らし

久志地域の集落で暮らす人々の日常を、特別な脚色はなくそのまま体験。毎朝の散歩や農作業、ヤギへのエサやり、地元女性のゆんたくに入り込んで一緒に手作業をするなど、9名(2024年12月現在のパートナー)のそれぞれの暮らしの一部を疑似体験することで、集落の住人になったような気分を味わう。それぞれのパートナーの人物に触れられることも大きな魅力。故郷に帰省するような感覚で、再びパートナーに会いに訪れたいくなる内容になっている。

ルート例

※おしゃべりオジと集落さんぽの一例

公民館に集合！



ローカル パートナーの紹介

ツアーの案内役である「おしゃべりオジ」こと宮城勇吉さんによる村の歴史と、年に一度の祭事である豊年祭の紹介。



集落散歩

集落の神様が祀られている安部御神殿、十字路(アジマー)などを訪問。



安部ビーチ散策

のんびりとした穴場ビーチで、宮城さんがホラ貝吹きを披露。希望すれば、参加者もホラ貝を吹くことができる。



認定住民票の発行

公民館に戻り、パートナー(宮城さん)の直筆署名入り「認定住民票」を交付。



ローカル パートナーと ツアー例

ヤギマスターと 朝散歩

(二見区・喜屋武さん)

暮らしの達人と ゲートボール

(大浦区・嘉手苺さん)

ゆんたくはんたく♪ ものづくり女子会

(三浦区・三原ていぐま会)

地域にある守りたいものを 守っていく

手間と心を込めた畑作業
(嘉陽区・翁長さん)

おしゃべりオジと 集落さんぽ

(安部区・宮城さん)

元寿司職人の 引退ライフ

(大川区・澤城さん)

琉球藍が彩る 自然の中で子育て

(三原区・照屋さん)

仲良し夫婦と ゆったり朝時間

(嘉陽区・比嘉さんご夫妻)

小学生の夏休みに 戻れる朝7時

(天仁屋区・ラジオ体操同好会)

基本情報

主催者：株式会社ホット沖縄総合研究所 098-860-6100

那覇拠点 沖縄県那覇市西1-19-1-2F

名護拠点 沖縄県名護市安部156-2

エリア：名護市(久志地域)

タイプ：現地発着募集型ツアー(事前申し込み制)

所要時間：30分～2時間

料金：700～5,000円(税抜) ※料金変動あり

最少催行人数：大人2名以上

想定対象：カヌチャリゾートのゲストが中心。沖縄のローカルな暮らし体験に興味がある層

URL: <https://okisatojikan.com/>

NPO法人久志地域観光交流協会

事務局長 江利川法孝さん



新たな交流が地域の元気を
生かぎの創出に

「地域と一緒に事業を始めるときに一番大切なのは、無理強いになってはいけないということ。地域の方々がやりたいことはうまく進むけれど、外からの一方通行な施策はうまくいきません。今回の事業は、パートナーさんの暮らしを守ることが大前提になっています。一方で、外から人が入ってくることがいい刺激になっていることも事実。新たな交流により発表の場ができた、地域の魅力を再発見したり、相互学習の機会や、新しいことにチャレンジする意欲にも繋がっているのではないのでしょうか。そこに地域の活性化や伝統文化継承の糸口が見えて、両輪がバランスよく回っていくようになれば理想的ですね」。

本事業で実施したモニターツアー参加者の中には、集落での暮らしに触れ、将来移住を考えたいという人も。観光としてだけでなく、末永く関係性を育んでいく出会いをも創出するコンテンツに期待がかかる。

サポートに入ることもある。特別な脚色もなければ、大きなイベントが用意されているわけでもないが、参加してみるとこの久志でしかできない、かけがえのない体験であることが分かる。上原さんたちが最も配慮しているのは、ツアーの催行が決してパートナーの暮らしの妨げにならないこと。各区長との報告会やパートナーのもとを訪問するときにも、必ず久志交のスタッフとともに行く。それが時間をかけて築き上げた信頼関係を維持するうえで欠かせないと考えているからだ。「ホテルのすべてのお客様に体験していただきたいくらい、魅力的な内容だと思いますが、特に地域の暮らしや文化に興味があつて、

その価値をとともに育んでくださる方に来ていただきたいです。まず、パートナーさんの普段の暮らしを守る事が大切。さらにパートナーさん自身にも楽しんでいただけたら、持続性のある事業になり、経済効果にも繋がると思います」と翁長さん。モニターツアー実施後は、パートナー側にも新たな変化が表れてきている。「畑で採れたものや、自分たちが作ったものも食べてもらいたい」など、ツアー内容を充実させるための提案が次々と出てきているというのだ。地域とともに取り組み、生活体験とツーリズムを組み合わせた観光コンテンツは、地域の人々が主役。今後の展開に大きな期待がかかる。



伝統芸能のエッセンスを
凝縮し、少人数小空間で

一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室は2019年、琉球伝統芸能を継承し、人材育成と活躍の場を創出することを目的

©琉球伝統芸能デザイン研究室



琉球王朝時代の高貴なおもてなし 「うとういむち」で琉球伝統芸能の 継承と発展を目指す

交易で栄えた王朝時代に生まれた琉球伝統芸能には、沖縄のおもてなしの原点がある。
若手を育成し、活躍の場をつくることで伝統文化の継承を目指す法人が
事業として大きく躍進した秘訣とは？
伝統芸能とツーリズムの連携から生まれたコンテンツには
沖縄の新しいプレゼンテーションのヒントがある。

に設立。柱となる活動として、社会貢献公演、主催公演に加え、少人数・小空間で行う受託公演がある。2021年に本事業にエントリーし、1年間のサポートを受けたのち、自走化を実現。現在はおもにラグジュアリーな空間にて年間100回以上の公演を提供するまでになった。短期間で事業を急成長へと導いたポイントを、事務局長の平賀和明さんに聞いた。

「代表理事の沖縄県立芸術大学教授・山内昌也が、卒業後の学生の活動場所が少ないことを課題と
思っていたことがきっかけです。
伝統芸能だけで収入を得ていくことは難しく、上演機会を増やし受け皿を整える必要性を感じていました。高品位な仕事として演じる場をつくることで人材を育成し、
伝統芸能の継承と発展に繋がればと、法人を設立しました」。

コンセプトは「琉球伝統芸能の新しいカタチとデザイン」、つまり伝統と革新だ。「琉球伝統芸能II宮廷芸能」に絞り込み、演者は歌三線と舞踊の二人だけ。小空間で演じることもこだわった。まさに革新的な取り組みに不安はなかったのだろうか。

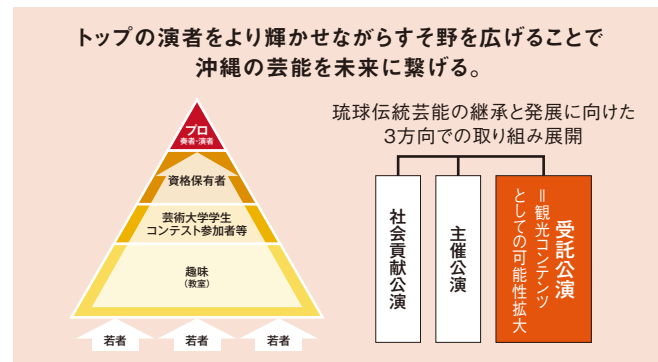
「以前、山内が東京で開催した歌三線と女踊りによる二人だけの公演が好評だったこともあり、チャレンジしてみる価値はあると感じ



研究室の活動の企画・運営を担当する事務局長の平賀和明さん。観光コンテンツ開発のプロデューサー的存在。

ていました。万人に受け入れてもらえなくても、伝統芸能に興味があるお客様に向けて発信できればいいとの思いもありました。

その目論見は見事に的中した。大人数で鑑賞する劇場では味わえない特別感とともに、歌三線の息遣いや舞の所作による畳のすり足、紅型の衣装が擦れる音を間近に感じる臨場感が来場者を魅了。公演



回数を重ねるごとに評判は高まっている。

人材育成、社会貢献活動と並行し
さらなる連携を強めていく

法

人が発足した2019年は、琉球料理・泡盛・芸能の三つが沖縄県で初の日本遺産に登録されたタイミングでもあり、琉球料理の老舗料亭との連携が実現。主催公演に加え、県内商業施設での上級会員向けの貸切り公演等を受託。また、本事業で支援した首里城での公演が富裕層向け雑誌で取り上げられた。これらが呼び水となり、ラグジュアリーホテルでの定期公演、プライベートな席での依頼も増えた。

「5年間でここまで急成長するとは思っていませんでした。確実にハイクオリティな体験を重視する時代になってきていると感じています」。

現在、演者は約20名。ピラミッド形で形成され、頂点は師範、指導者などプロの演者。中央が資格保有者で、すそ野で支えているのが芸大の学生やコンテストの参加者。トップの演者をより一層輝かせながら、すそ野を広げていくことが、人材を育成し伝統芸能を次世代に継承していくことになる。平賀さんたちは考えている。また、

本事業へのエントリーの成果をこう語る。

「エントリー前は、公演と琉球料理をセットで提供するというところまでしかできていませんでした。琉球王国の歴史や紅型の解説を含めた、パッケージとしての見せ方を本事業のアドバイザーさんに相談できたことで、沖縄の伝統芸能への理解をより深めていただける内容に磨かれたと思います。試行錯誤を重ねながらも、温めていた企画を思い切って実現する推進力になりましたし、新たなネットワークが生まれ、大切な出会いに繋がったことも大きいですね」。

今後は、沖縄食材を取り入れたイタリアンやフレンチとのコラボレーションや、リラクゼーションとしてスパでの上演なども構想にある。インバウンドの需要もあることから、伝統芸能をいかに翻訳して伝えるかも課題だという。

沖縄の伝統芸能は、交易で訪れる人たちをもてなしたことが起源といわれる。「おもてなしそのものが観光資源だったのでは」と平賀さん。これまで美しい海という自然に頼りがちだった沖縄の観光。伝統文化を継承し人材を育成するプロジェクトには、沖縄がもつポテンシャルを発信し、新しい形のプレゼンテーションをリードする存在となる可能性を秘めている。

琉球の美

～特別なおもてなし～

琉球王朝時代の高貴なおもてなしを沖縄伝統芸能で再現。歌三線と舞踊の2名により小空間で上演することで、ダイナミックな臨場感を体験できる。本物の琉球紅型や房指輪など、通常ではなかなか見ることができない衣装や小物を鑑賞し、触れられることもポイント。終演後にはフォトセッションの時間が設けられている。



基本情報

主催者：一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室(沖縄県那覇市首里当蔵町1-4 沖縄県立芸術大学 山内昌也研究室)
098-882-5090
エリア：沖縄全域、東京などの県外
タイプ：受託公演
料金：ご相談
所要時間：解説を含め30～40分程度(ご相談)
催行人数：2～50名程度(50名以上はマイクを使い実施可能)
想定対象：上質なホンモノ体験を求める人、文化・歴史への関心がある国内外からの旅行者
URL：https://ryu-design.or.jp/



琉球伝統芸能デザイン研究室のコンセプトは“伝統と革新”。琉球王朝時代から受け継がれてきた琉球伝統芸能を現代に伝え、未来へ守っていくために必要なことを、代表である山内昌也さんに聞いた。「歴史のなかのそれぞれの局面で、革新は行われてきたはずで。伝統芸能に限らず、各地域に伝わる芸能や文化の軸は崩すべきではありませんが、今の人々が共感できるような活動が必要です。私たちが目指しているのは、エンターテインメントというよりアート。伝統芸能の歴史と先人たちの想いである理念を軸に、社会貢献公演、人材育成のための主催公演、お客様のリクエストに合わせた受託公演の3種類でピラミッド型を形成した活動を行っています。このバランスを保っていかば、伝統芸能を100年後にも残していけると考えています」。



一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 代表
沖縄県立芸術大学 教授
山内昌也さん

山内昌也さん



ep
05

支援年度
令和3～5年度

エリア
恩納村
(瀬良垣)



ティモシー・ラバシ教授を筆頭に、世界中からトップレベルの研究者が集まる、OISTの海洋気候変動ユニットと提携。

左から、プロジェクト担当の内田徹さんと川上満さん、ツアー現場の指揮を執る花俣峻介さん。

シュノーケルの楽しさに学びをプラス

クマノミの生態から 沖縄の海を学ぶ

愛らしい姿から人気が高いクマノミ。海洋環境変化により、周辺海域で個体数が減少している熱帯魚の育成プロジェクトをコンテンツ化した事業が成功したポイントとは。



コンテンツ化にあたり、隣接するOISTマリン・サイエンス・ステーションに提携を提案。研究の一つに、卵からふ化したクマノミを周辺の海へ放つ活動を行っていることに注目した。育成現場でシュノーケリングを楽しむツアーに、クマノミの生態やOISTの研究内容が分かるレクチャーを加え、学びと体験を組み合わせたプ

「360度海に囲まれたホテルにとって、海そのものが最大の財産。この環境を守るため、地域全体で取り組むプロジェクトを提供し、発展させていく責任があると感じました」。

コンテンツ化にあたり、隣接するOISTマリン・サイエンス・ステーションに提携を提案。研究の一つに、卵からふ化したクマノミを周辺の海へ放つ活動を行っていることに注目した。育成現場でシュノーケリングを楽しむツアーに、クマノミの生態やOISTの研究内容が分かるレクチャーを加え、学びと体験を組み合わせたプ

沖

世界最高水準の
研究チームが監修した
マリンアクティビティ

縄本島中央部、西海岸に位置するリゾートホテル、ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄で、アクティビティの一つとして実施しているのが、瀬良垣島・クマノミ育成プロジェクトだ。大きな特徴は、沖縄科学技術大学院大学(OIST)の海洋気候変動ユニットが監修を行っていること。世界的に高い評価を得ている研究チームと連携したことで、上質な学びのプログラムになっている。プロジェクトを担当する内田徹さんに経緯を聞いた。

瀬良垣島・ クマノミ育成プロジェクト

～シュノーケルで瀬良垣島の海とクマノミの生態を学ぶ～

ホテルを囲む海の一部に設けられたクマノミ育成区周辺のシュノーケリング体験と、ビデオによるレクチャーを組み合わせたアクティビティ。隣接する研究機関の監修に加え、経験豊富なインストラクターの案内により、子どもから大人まで安全に楽しく体験できる。



基本情報

主催者：ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄
(沖縄県国頭郡恩納村瀬良垣1108) 098-960-4321
エリア：国頭郡恩納村瀬良垣
タイプ：現地発着募集型ツアー
所要時間：75分
料金：大人10,000円～、子ども(6～11歳)8,000円～
最少催行人数：1～8名
想定対象：ホテル宿泊者を中心に、家族連れ、個人
URL：<https://hyattregencyseragaki.jp/activity/kumanomi>



"離島の海ごみ問題"に向き合う実践活動

ビーチクリーンは SDGsなアクティビティ

いつかやりたかった離島でのビーチクリーン。離島の地域コミュニティと一緒に清掃活動、しかも再生型観光に貢献できる。

「海外では、再生型観光やボランティア観光の動きがおこっています。沖縄を『世界から選ばれる持続可能な観光地』にする先駆けになる」と、ビーチクリーンと観光を組み合わせることを考えましたと、棚野さんは話す。

ツアー化において大きな力となったのが、学生時代からビーチクリーン活動に携わり、地道な活動で築き上げてきた津波さんのネットワーク。一方のOISTは、旅行会社としてのノウハウが強み。さらに、本事業にエントリしたことで、離島の下見や自治体との

「愛」 好家「なる言葉があるほど、コアなファンをもつビーチクリーン。これを共同で観光コンテンツ化したのが、沖縄ツーリスト株式会社(OIST)と一般社団法人しまぬわだ。

しまぬわは「沖縄を世界一海に優しい地域に」をスローガンにビーチクリーンを通じて沖縄の海洋保全に取り組む団体で、津波駿佑さん(代表理事)が2023年に設立した。OISTでSDGs活動に取り組む棚野浩さんも運営に携わっていることから、社会課題解決事業としてツアー化を企画した。

ビーチクリーンで 想いを繋ぐ 沖縄の離島 全島チャレンジ

～"離島の海ごみ問題"に向き合う実践活動～

ビーチクリーン愛好家を沖縄本島から離島にお連れするビーチクリーンツアー。沖縄県の有人離島38島、全てを訪問。訪問先の離島では島の子どもたちと活動し、離島の海ごみ問題に向き合う活動も行う。



基本情報

主催者：沖縄ツーリスト株式会社(沖縄県那覇市松尾1-2-3)
098-917-2546
エリア：県内の有人離島38島
タイプ：沖縄本島発着募集型ツアー
所要時間：訪問先により、1泊2日または日帰り
料金：訪問離島により異なる
最少催行人数：15名
想定対象：家族連れ、個人、団体、ビーチクリーン愛好家
ボランティアツーリズムに興味がある層
URL：<https://zento-challenge-okinawa.studio.site/>

ep
04

支援年度
令和6年度

エリア
県内の有人
離島38島



本コンテンツ開発を担当するOTSの棚野浩さん(右)と、しまぬわ代表理事・津波駿佑さん。二人三脚でツアーの収益化とともに、「離島の海ごみ問題」の課題解決を目指す。

旅行会社のノウハウに
環境活動の
ネットワークを活かす

関係づくりがスムーズになり、コンテンツ造成のスピードアップに繋がった。また、その過程では新たな課題も見えてきたという。

「現地でヒアリングを重ねるうちに、『離島の海ごみ問題』にぶちあたりました。離島では集めた海ごみが焼却できず、本島に移送して焼却してもらっています。これは隠れた社会課題です」と棚野さん。

そこで、離島の海ごみ問題に向き合う場としての要素をツアーに加えることに。島の小中学生や地域の人と交流するだけでなく、ゴミ処理場の見学を盛り込み、現地の状況を自分たちの目で見るこ

とした。

本事業の過程で「離島清掃協力隊」も結成した。「離島の海ごみ問題」に向き合うコミュニティで、ビーチクリーン愛好家だけでなく、学識者、海ごみ調査の専門家、自治体職員など約90名が参加。今後は、離島が抱える海ごみ問題に対する市民運動を立ち上げる予定だ。「再生型観光の先駆けにとどまらず、社会全体で離島の海ごみ問題に向き合えるようになりたいですね」と棚野さん。ボランティアと観光が連携したコンテンツに、離島が抱える社会課題解決のヒントが隠されているかもしれない。



ep
07

支援年度
令和4年度
エリア
南城市

南城市観光協会の平良幸松さん。地域の資源を守ることと観光の両立を目指した各種体験の企画と受け入れを行っている。



琉球王朝最高の聖地を案内人と巡る少人数ツアー 祈りの原点に触れ 心身を整える

琉球王国の遺跡群の一つとして、世界文化遺産に登録されている斎場御嶽。朝日が昇る神聖な時間を、琉球王朝最高の聖地で祈りの時間を過ごすプログラムは心身のリフレッシュとともに、この場所の歴史と価値が伝わる内容になっている。

「コンテンツ開発の過程で、世界遺産は地域の財産として持続的に活用していくことが、守ることに繋がるのだと分かりました。それまで情報発信することで大切な資源が荒らされ、地域が疲弊する心配がありました。きちんと価値を伝えてこそ守っていくのだと思っています」と、南城市観光協会の平良幸松さん。

南城市では来場者増加による斎場御嶽の傷みに苦慮していた時期がある。コロナ期間中の一時休館を経て再公開するにあたり、早朝参拝と朝食を組み合わせ、ウェルネスをテーマとした企画を立ち上げた。京都の東寺での早朝拝観にヒントがあったという。

「ピリツと張り詰めた空気の中で、一般の方たちが真剣に祈りを捧げている姿を見て、『これだ!』と思いました。琉球神道では自然の岩を信仰の対象として拝む文化があります。自分たちが祈っているものは何なのか、感謝の気持ちの伝え方とは。そんな本質を伝えることができたなら、この場所の価値と意味、なぜ世界遺産なのかも理解していただけたと思います」。

総合監修は、地域資源を活かしたウェルネスツーリズムの開発を

聖地の本質を伝えることで
地域の財産を守っていく

コンテンツ開発の過程で、



本事業をきっかけに保育士資格を取得したTRP代表取締役の山田達也さん(右)と、アシスタントマネージャーの宇江城麻鈴さん。

ep
06

支援年度
令和5年度
エリア
本島全域

質の高い雇用の創出にも繋がるコンテンツ 伝統行事の体験で 沖縄の文化と精神を伝える

富裕層向けベビーシッターサービスに、沖縄式の誕生日祝いを組み合わせたプログラム。家族で伝統行事を体験することで、シッターの人柄に触れ、沖縄の奥深い魅力を知ることにも。ホテルコンシェルジュとの連携、有能な人材活用のもとでも期待がかかる。

家族旅行の新しいスタイルを提案する
リゾートベビーシッターサービス
「ワールドキッズ」にて新たに
沖縄らしい体験プログラムを開発



沖縄式の誕生日会で
伝統行事体験

「タ」
もの満一歳を盛大に祝う沖縄の行事。リゾートホテルを中心に、ベビーシッターサービスを提供しているティールピージャパン株式会社(TRP)では本事業を活用し、この伝統行事を組み合わせた家族向け体験プランを新たにコンテンツ化した。

「ベビーシッターのサービスにタンカーユーエーを組み合わせるのは、お預かりするお子さまだけでなく、ご家族で沖縄の伝統文化を体験していただきたいから。また、お祝いに親族の方もいらつしゃれば、グループでご提供できる可能性を感じたからです」と、代表取締役の山田達也さん。

ホテルを通じて問い合わせが入り、少しずつ認知度は高まってき

ワールドキッズ タンカーユーエープログラム

～健やかな成長を願い
沖縄伝統行事で誕生日を祝う～

沖縄に古くから伝わる誕生日の行事タンカーユーエーを家族で体験できるプログラム。子どもに琉装を着付け、シッターが行事の由来を説明しながら進行。食事中もシッターがサポートするので家族でゆったりとした時間を過ごすことができる。



基本情報

主催者：ティールピージャパン株式会社
(沖縄県糸満市潮崎町4-22-11) 098-840-3112
エリア：本島全域
タイプ：ホテル客室その他、ご指定先にて実施
料金：17,380円(税金・シッター交通費込み。琉装費用は別途)
所要時間：約2時間(食事を含む、儀式は1時間)
最少催行人数：3～12人
想定対象：ホテル滞在のファミリー ※1歳前後の子ども連れ対象
URL：https://worldkids-okinawa.com

世界文化遺産・斎場御嶽を 利用した早朝参拝

～琉球王朝最高の聖地で
祈りの地に触れる特別な時間～

世界文化遺産に登録された斎場御嶽に、一般入場者のいない早朝に入場。日の出の時間に合わせた参拝と、ヘルシーな朝食を組み合わせたウェルネスプログラム。少人数のため、ほぼ貸切で神聖な時間を過ごせる。

基本情報

主催者：一般社団法人南城市観光協会
(沖縄県南城市知念字久手堅541)
098-948-4611
エリア：南城市
タイプ：現地発着受託型ツアー
所要時間：3時間
料金：30,000円
最少催行人数：2名～最大5名
想定対象：国内の知識層、富裕層夫婦とその家族、沖縄の歴史に興味があり特別な体験を希望する旅行者
URL：https://okinawa-nanjo.jp/sefa/morningworship/

手がける専門家に依頼した。

「組5名までの少人数ツアーでは、神聖な時間とされる日の出時刻に合わせ、白い衣装をまとった専任の案内人とともに御嶽内部に入る。拝所までは案内人が一人ずつ導き、空間をひとり占めできることがポイント。祈りの後は、お茶の時間でリラクセスし、地元食材を使った朝食を味わう。

神事の緊張感と、終了後のゆったりとした時間の組み合わせが心地よく、通常では知ることができない歴史や文化に触れることも参加者から好評だ。高価格のコンテンツではあるが、手ごたえを感じているという。

「当初は北部のラグジュアリーホ

テルからの集客を考えていたのですが、本事業のアドバイザーより『早朝のプログラムなのに、遠すぎるのでは?』とのご指摘をいただき、地元のホテルの宿泊をセッ トにすることにしました。また朝食は、季節によって内容を替えたり、アレルギー対応もできる店と連携しています。地域の事業者さんと改めて連携を強めるきっかけになり、協力体制ができたことも大きな収穫です」。

オーバーツーリズムから質への転換を目指した本コンテンツには、世界遺産としての歴史の本当の価値とともに、現在の地域の暮らしにどのように根付いているかを伝えていく使命もある。

ている。

その過程で、ホテルコンシェルジュとの連携の重要性を痛感したという。日々、最前線で顧客のニーズに対応している彼らとさらに連携を深めていくことは、新たなニーズの掘り起しにも繋がる。ほかに、子どもに着せる琉装のレンタル業者や、レストランとの連携も増えてきたという。

「事業のベースはあくまでもベビーシッターサービスです。そのなかに、沖縄のことをもっと知りたいというニーズはあると感じています」。

在籍しているベビーシッターは、保育・教育・医療に関する有資格者を中心に、インバウンドの利用者

が多いことから外国語が堪能な人材も。富裕層にサービスを提供することで、人材の活用と雇用の底上げになる。

本事業を通じてもう一つ痛感したのは、アイデアを言語化したり、事業を自ら推進している力をつけていくことが必要であるということ。そのため山田さんは保育士資格とともに、大学院で学びMBAを取得したという。

「エントリーからプログラム造成まで、ずいぶんと鍛えられました」と話す山田さんは、事業のサポートを完了した現在も、ベビーシッターサービスを通じて新たな沖縄の魅力を発信できるコンテンツ開発の可能性を模索している。

令和6年度アドバイザーからのメッセージ

株式会社bizユニテッド
代表取締役

宮口 直人 氏

プロフィール

大学卒業後、株式会社ジェイティービーに入社し、法人営業・顧客企業のセールスプロモーション活動に従事。その後、日本精工株式会社にて、外資系自動車会社の営業担当として、担当部品のコストダウン、生産地移管などの業務に携わる。2009年より経営コンサルタント、講師職に従事。コンサルタントとして、宿泊施設の再生、地域活性化プロジェクト、観光人材育成等の領域で豊富な経験を有する。趣味は本格的な交流旅行。学生時代からバックパッカーとしてアジア、ヨーロッパ、アメリカなど約35カ国を旅する。日本でも青春18きっぷで全国鉄道の旅などを経験し、全都道府県を訪問する。



大切な地域資源をどのように伝えていくか
～地域に根差した文化資源・地域資源を丁寧に活かす～

豊かな自然、美しい海、そしてリゾート感あふれる雰囲気。これだけでも沖縄は世界に誇れる観光資源に恵まれています。しかし、それだけでなく、人、歴史、食といった沖縄ならではの多様な地域資源が、観光の魅力をさらに深めています。これらの地域資源を観光資源として活用するためには、コンテンツの作り手の思いを、観光客が共感できるストーリーにすることが重要です。本事業では、地域の本物の魅力を発掘し、共感を呼ぶ観光資源へと昇華させることを目指しています。

本事業において、もう一つ大切なのは「地域の皆さんが主役である」ということです。そのためにまず大切にすべきは、地域の皆さんの思いや願いです。その思いを起点にし、それに共感してくれる顧客が自然と集まる形をつくるのが本事業の本質といえます。一般的には、顧客ニーズを基にストーリーを構築することが多いですが、本事業ではその逆のアプローチを取ります。地域の皆さんが大切にしたいことを、観光客に響くストーリーへと変えていくのです。

地域の皆さん自身が地域資源を発掘し、それを観光コンテンツとして形にし、顧客に支持されることで事業として継続される。このプロセスこそが、沖縄の未来の観光の礎となります。このような魅力的な取り組みこそが、本事業の醍醐味です。

株式会社スタイル
代表取締役／PRプランナー

吉戸 三貴 氏

プロフィール

那覇市出身。慶應義塾大学卒業後、県の奨学金でパリに留学。帰国後PRの世界へ。沖縄美ら海水族館広報、東京のPR会社を経て2011年に起業。日本初の広報・情報学修士号を取得し、沖縄・東京を拠点に自治体や企業のPRアドバイスを多数手がける。PRを広い意味での「関係づくり」と捉え、地域の資源に適した顧客層に向けた新しい観光コンテンツ開発・発信に助言を行ったり、選ばれる商品・町になるためのコミュニケーション設計などをサポートしている。



人を主軸とした小さな単位のネットワークこそが“沖縄力”
本質的な強み×時代を読む力=持続可能な事業へ

私の専門分野はPRです。PRというと商品の魅力を大きな声で外に発信するものと思われがちですが、実際は、PRとは「関係づくり」であると考えています。主体になる組織や人と周囲が繋がり、よい形で関係を維持し続けていくということ。観光で言えば、一過性のキャンペーンで人を呼べばよいというのではなく、また誰かに会いたいという気持ちや、土地への愛着などの「思い」がいくつも集まり、その繋がりやの積み重ねによって持続可能になるものだと考えています。

沖縄はブランド力が高いので、一見、大きな丸（=ひとくりに人気の観光地）に見えてしまいがちですが、私は決して一つではなく、ブドウの房のように、小さな単位の「組織」や「人」ででき上がっている集合体だと考えています。ひとつひとつの粒立ちをよくすることで、県全体としての魅力も増していく。私には沖縄がそんな風に見えています。こうした視点からも本支援事業においては、小さくてもそれぞれの事業を丁寧に磨きあげること、事業者同士の繋がりがちやお客様との出会いづくりを大切にしています。これからも、PRに欠かせない中長期的な視点をもって、皆さんと一緒に悩み、考えながら歩みを進めていけたらと思っています。

K plus 代表

明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部教授

阿部 佳 氏

プロフィール

(株)バルコ等の勤務を経て、1992年、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにコンシェルジュとして入社。1997年コンシェルジュの国際組織「レクレドール」の正会員となり(現在、名誉会員)、翌年「レクレドールジャパン」のプレジデントに任命される。2002年よりグランドハイアット東京にチーフコンシェルジュとして勤務。2015年4月より現職。



「地域」単位で面をつくり、その魅力を伝える
お客様の声に耳を傾け、しっかりと調査・分析していくことが要

「観光」の成功のためには、観光事業者だけが「点」で行うものではなく、来てくださった方を地域全体としてお迎えし、そして、また戻ってきていただけるようにする、このように地域一丸となって魅力を伝えていく“面”をつくるのが大切です。本支援事業は、こうした地域内の点を繋いで面にしていく、そのプロセスに地域とともに取り組めることが強みであり、特徴だと考えています。さらには、本事業に参加した人たち同士も交流の中でネットワークを強め、互いに知恵や力を積極的に貸し合い、ぜひとも協力し合ってもらいたいです。

スタートするにあたってはまず、自分の地域の「何がどう好きなのか」ということをきちんと整理することがとても大切ですが、併せてもう一つ重要なことは、お客様の気持ちで物事を考えるということ。外の声にも素直に耳を傾け、自分たちの強みを整理し、そしてそれを誰にどう販売したらいいのかというようなことを調査・分析する。そのうえで、具体的に何がどう魅力的なのか、しっかりとご自身の言葉にしていく。こうしたプロセスがあってこそ人に伝え、人を動かすことができるのです。

旅ナカラボ合同会社 代表社員
株式会社北信越地域資源研究所 取締役

野添 幸太 氏

プロフィール

1985年 株式会社日本交通公社入社。旅行営業(涉外営業・個人販売・店舗マーケティング)ののち、約25年間を旅行、観光の新規事業開発を担当。
※商事部門／国内産直グルメ通販開発、おみやげネット通販立ち上げ
※旅行部門／旅行コールセンターシステム開発、インバウンドコールセンター立ち上げ
※観光部門／観光情報サイト立ち上げ(社内起業)、タクシー定期券開発、民泊チェックインシステム開発
現在はこれまでの経験を活かし、地域における観光新規事業開発・コンテンツ開発のアイデア出しから企画作成、実際の開発支援業務までサポート。



沖縄の日常そのものが長期滞在型観光の軸に。
集客に繋げるまでがゴール

沖縄の観光コンテンツとしての最大の魅力は、「日常」の中にこそあると私は思っています。ですから、一生懸命“観光、観光”した形で沖縄の魅力を再現しなくてよいのです。肩の力を抜いて、無理せずにありのままの沖縄の暮らしを表現していった方がいいのではないのでしょうか。プログラムを詰め込むのではなく、ゆっくり過ごしていただく。そのために、何ができるか。特に海外からのお客様に対する長期滞在型の新しいコンテンツは、今後こうしたことに軸足がシフトしていくのではないかと、期待感もっています。

この事業において私たちアドバイザーの役目は、伴走してサポートを繰り返すことで、「自分たちだけの思い込み」をそぎ落とし、旅行者目線で徐々にブラッシュアップしていくこと。本支援事業は「よりよいものにするための支援」というところにユニークさを実感しています。そして、この事業に取り組むうえで重要なことは、「ゴールをどこに見すえて取り組んでいるか」ということです。商品としてコンテンツをつくりあげるところまでがゴールだと思いがちですが、そうではなく、その先にどこに向かって情報を届けるか、支持を得るか、そして最終的にはお客様を集めるために、どこまで仕上げていくのかを意識していただきたいと思います。



国王に招かれた賓客の気分に浸る贅沢体験

琉球王国時代の“古”と“今” を行き来する

「もしも、琉球国王が現代人をもてなすとしたら?」。そんなイメージから生まれたのが首里城のおひざ元にあるホテルが造成したコンテンツ。
本物志向の上質な体験の組み合わせで、首里エリアの活性化を目指す。

「食事を琉球料理にする案もあったのですが、フランス拠点のホテルのブランドを活かすため、沖縄食材を使ったオリジナルフレンチ」と、世界遺産の玉陵では、琉球王朝時代に賓客をもてなした宴が起源とされる古典芸能を少人数・小空間で鑑賞し、ホテルでディナーを味わう。さらに、紅型三宗家の一つである、しるま紅型工房での染め体験を加えるなど、ひとつひとつを吟味した。

「ホテル沖縄那覇が造成したコンテンツは、首里城散策や琉球伝統芸能の鑑賞、紅型工房での染め体験などを組み合わせたもの。立地とともに、宿泊と食事を提供できる、ホテルの強みを活かした内容になっている。」「首里城のおひざ元にあるホテルとして、『首里の本物を伝えよう』というところからスタートしました。沖縄は日本で唯一、王国があった場所。首里城では交易で訪れた外国人をもてなした歴史があり、そのシーンを再現するプランが生まれました」と、セルス&マーケティング部長の泉曉夫さん。

エンタメ性を高めるため、地元で人気の歴史研究家・賀数仁然さんが王の使者としてゲストをナビゲート。世界遺産の玉陵では、琉球王朝時代に賓客をもてなした宴が起源とされる古典芸能を少人数・小空間で鑑賞し、ホテルでディナーを味わう。さらに、紅型三宗家の一つである、しるま紅型工房での染め体験を加えるなど、ひとつひとつを吟味した。

立地を活かしホテルならではのホスピタリティを強みに

琉球国王からの招待状

～琉球王国の文化・芸能に触れる本物体験～

琉球王国より引き継がれている文化・芸能と、ホテルの宿泊と食事を組み合わせたコンテンツ。「琉球国王からの招待」を受けてもてなされる設定で、首里城周辺散策や伝統芸能鑑賞、食事、紅型染めなど上質な体験を楽しむ。



基本情報

主 催 者：琉球ホテルマネジメント株式会社
(沖縄県那覇市松川40) 098-887-1115
エ リ ア：那覇市
タ イ プ：現地発着募集型ツアー
所要時間：2泊3日
料 金：未定
最高催行人数：～30名
想定対象：国籍や年齢を問わず、歴史好き、知的好奇心旺盛な旅行者
U R L：https://okicon.jp/content_r5/novotelokinawanaha/

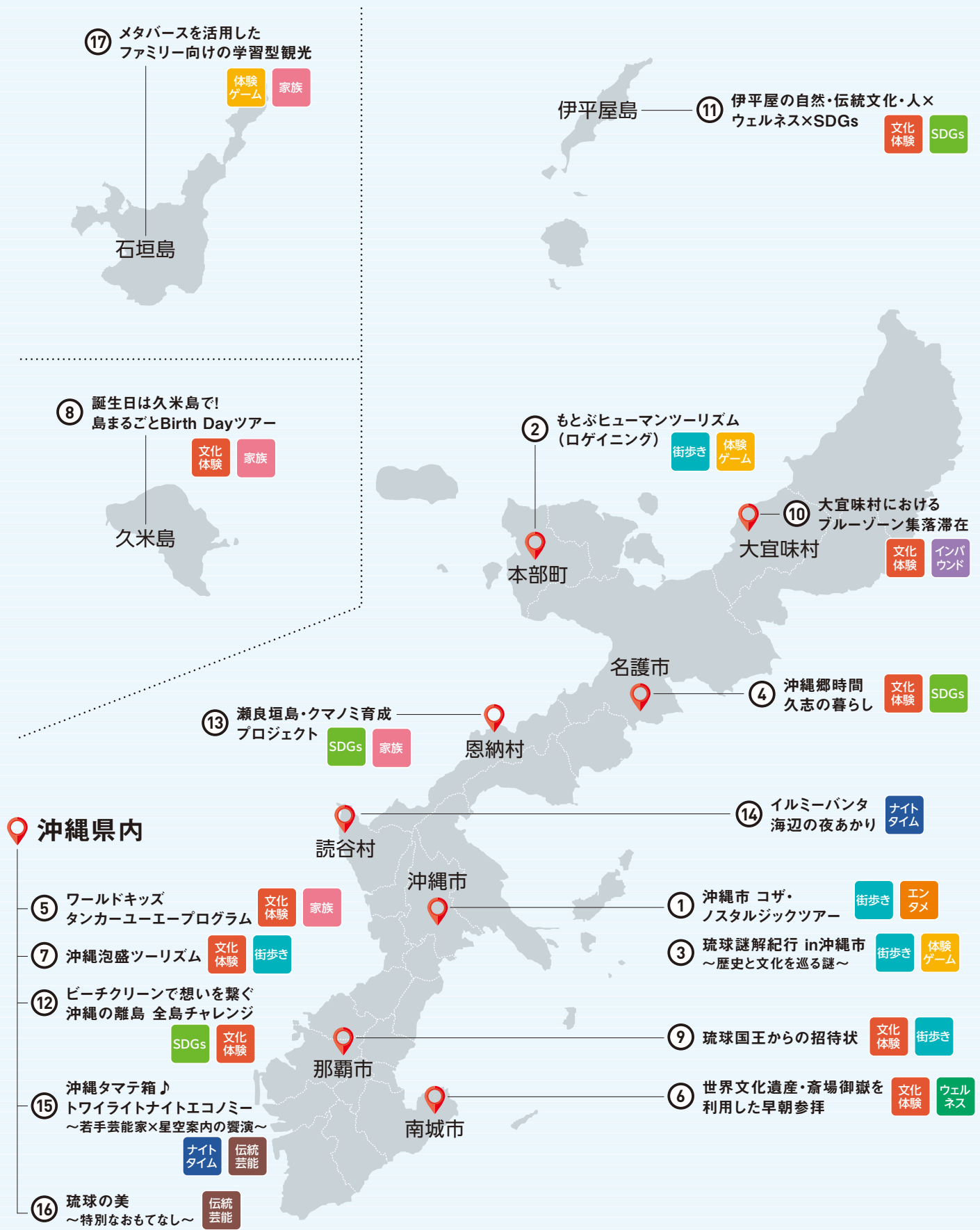
としました」。玉陵で鑑賞する伝統芸能は、琉球伝統芸能デザイン研究室(PS)と連携し、歌三線と舞踊を上演。臨場感とともに、公演終了後の演者との交流が好評で、その後も互いに活用し合うよい形での連携が続いているという。」「本事業参加をきっかけに、首里エリアでのネットワークが広がり、地域と連携しながら体験内容をカスタマイズできるようになってきました。今後は付加価値をさらに上げることで、価値に見合う価格で販売し、持続可能なコンテンツとして首里エリアの活性化に貢献していきたいですね。また、本事業をきっかけに地域のコミュニティに参加できるようになりました」。

た。事業者さん同士が連携してワークショップや朝市を開催するなど、エリア全体の盛り上げを感じています。最後に泉さんには、これから本事業に参加する事業者に向けてのメッセージを語ってもらった。」「本事業はチャレンジの足がかりになり、またブラッシュアップの後押しをしてくれます。沖縄の人にとって当たり前にあるものでも、お客様にとっては新鮮なものが多くあります。それをいかに価値ある魅力的なコンテンツに仕上げていくかがポイント。最初から完璧である必要はなく、少しずつ磨きあげていけばいいと思います。私たちもそうして、現在のコンテンツにたどり着いたのですから」。

沖縄観光コンテンツ開発支援事業

【今号掲載コンテンツMAP】

	カテゴリー		年度 (令和)	エリア	事業者名	コンテンツタイトル	概要	P
①	街歩き	エンタメ	6年度	沖縄市	株式会社 ファンファーレ・ジャパン	沖縄市 コザ・ノスタルジックツアー	コザの旧新を巡るローカルウォーキングツアー。現役の芸人によるガイドトークやライブハウスでのコザロック鑑賞などエンタメ性も抜群。	4
②	街歩き	体験ゲーム	5・6年度	本部町	株式会社 沖縄美ら島フードサービス 一般社団法人本部町観光協会	もとぶヒューマンツーリズム (ロゲイニング)	自然、文化など町内のエリア内に設定されたチェックポイントを巡り得点数を競うロゲイニング。大人数での実施が可能。	18
③	街歩き	体験ゲーム	6年度	沖縄市	一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会	琉球謎解紀行 in沖縄市 ～歴史と文化を巡る謎～	歴史的スポットや観光スポット、商店街に隠された謎を解きながら巡る。日時を指定されないため参加者の自由度が高い。	18
④	文化体験	SDGs	6年度	名護市	株式会社 ホット沖縄総合研究所	沖縄郷時間 久志の暮らし	散歩や農作業、ヤギへのエサやり、民具づくりなど、名護市久志地域の人々の日常を特別な脚色はなく、そのまま体験することができる。	6
⑤	文化体験	家族	5年度	本島全域	ティーアールピージャパン株式会社	ワールドキッズ タンカーユエープログラム	沖縄に古くから伝わる誕生日の行事タンカーユエーを家族で体験できるプログラム。地元のシッターが行事の由来を説明しながら進行する。	12
⑥	文化体験	ウェルネス	4年度	南城市	一般社団法人 南城市観光協会	世界文化遺産・斎場御嶽を利用した早朝参拝	世界文化遺産に登録された斎場御嶽に、一般入場者のいない早朝に入場。日の出の時間に合わせた参拝と、ヘルシーな朝食を組み合わせたウェルネスプログラム。	13
⑦	文化体験	街歩き	5・6年度	県内全域	沖縄県酒造組合	沖縄泡盛ツーリズム	泡盛ガイドの案内により、蔵内や醸造所見学と、周辺地域の歴史、自然、文化体験を組み合わせたツアー。	19
⑧	文化体験	家族	6年度	久米島	FM久米島株式会社	誕生日は久米島で! 島まるごとBirth Dayツアー	パースデーコンシェルジュが誕生日を迎える主役に合わせてオリジナルプランを作成し、島をあけて祝う。	20
⑨	文化体験	街歩き	4～5年度	那覇市(首里)	琉球ホテルマネジメント株式会社	琉球国王からの招待状	琉球王国時代より引き継がれている文化・芸能と、ホテルの宿泊・食事を組み合わせたコンテンツ。首里城周辺散策や伝統芸能鑑賞、食事など上質な体験を楽しむ。	14
⑩	文化体験	インバウンド	6年度	大宜味村	株式会社 地域ブランディング研究所	大宜味村における ブルーゾーン集落滞在	インバウンド向けの民泊を利用した1泊2日のツアー。通訳と集落の歴史や文化、生活習慣を熟知した地元ガイドが同行し、自然体験、もの作り体験などのプログラムを提供。	21
⑪	文化体験	SDGs	6年度	伊平屋島	あいあいゆいまー株式会社 アデリープランニング株式会社	伊平屋の自然・伝統文化・人× ウェルネス×SDGs	かつて村祭りで使われていたサバコを修復して行う伝統漁業体験、島の女性に教わるクパの傘作り、大人向けの民泊など、人と自然の豊かさを体験する。島ならではの資源を活用した、ウェルネスで持続可能なプログラム。	21
⑫	SDGs	文化体験	6年度	県内全域	沖縄ツーリスト株式会社 一般社団法人しまぬわ	ビーチクリーンで想いを繋ぐ 沖縄の離島 全島チャレンジ	沖縄離島に出かけ、海の清掃活動を行う。訪問先では地域の人たちと交流し、ゴミ処理施設を見学したり、ゴミ処理の課題についても学ぶ。	10
⑬	SDGs	家族	3～5年度	恩納村	ハイアット リージェンシー 瀬良垣 アイランド 沖縄	瀬良垣島・クマノミ育成 プロジェクト	シュノーケルと座学で瀬良垣島の海とクマノミの生態を学ぶ。沖縄科学技術大学院大学(OIST)監修。経験豊富なインストラクターと安全に楽しく体験。	11
⑭	ナイトタイム		3～5年度	読谷村	バンタカフェ by 星野リゾート	イルミーバンタ 海辺の夜あかり	ライトアップされた海岸線を見下ろすカフェ&テラスで癒しの時間を過ごす。地元ミュージシャンや作家と連携したイベントも。	19
⑮	ナイトタイム	伝統芸能	5・6年度	本島全域	株式会社セルリアンブルー	沖縄タマテ箱♪ トワイライトナイトエコノミー ～若手芸能家×星空案内の饗宴～	バスツアー。世界遺産、琉球歌碑などを訪問し、若手芸能家の琉球演舞を鑑賞。ワークショップと夕食後は、特別なエリアでの沖縄の星空を鑑賞する。	20
⑯	伝統芸能		3年度	県内全域・県外	一般社団法人 琉球伝統芸能デザイン研究室	琉球の美 ～特別なおもてなし～	伝統芸能のエッセンスを凝縮し、琉球王朝時代の高貴なおもてなし「うとうむち」を少人数・小空間で体験。	8
⑰	体験ゲーム	家族	5・6年度	石垣島	特定非営利活動法人 うみもりそら	メタバースを活用した ファミリー向けの学習型観光	インターネット上の仮想空間で事前学習した島の自然や文化を、実際に島を訪れてリアルに体験。	22



支援年度 令和3～5年度
エリア 読谷村

幻想的な灯りと波の音に癒される 冬の夜の ピクニック体験



イルミーバンタ 海辺の夜あかり

～打ち寄せる波が輝く、入り江のイルミネーション～

ライトアップされた海岸線を見下ろすカフェやレストランで、カフェメニューを楽しみながら癒しの時間を過ごす。地元ミュージシャンや作家と連携したイベントも組み合わせ、自然のスケールを活かしたコンテンツになっている。

基本情報

主 催 者：バンタカフェ by 星野リゾート
(沖縄県中頭郡読谷村儀間560) 098-921-6810
エ リ ア：読谷村
タ イ プ：現地に随時対応
所要時間：1時間～2時間
料 金：500円(ドリンクメニュー)～
最少催行人数：1名～
想定対象：星のや沖縄および近隣ホテルの宿泊客、本島周辺のドライブ客
U R L：https://banta-cafe.com/illumibanta/

海辺をライトアップする
冬の期間限定イベント

星野リゾートが運営するバンタカフェでは、冬の夜を盛り上げるためのコンテンツを造成した。入り江を囲むランドスケープを活かし、自然の海岸線をライトアップし、テラスには沖縄の民具を配置。訪れた人はカフェメニューを購入し、好きな場所を選んで過ごす。週末には沖縄のミュージシャンによるコンサートや、地元作家の作品を紹介する夜マルシェを開催。本事業3年目に確かな手ごたえを得ることができたこともあり、自走化後の4年目はライトアップの実施期間を延長した。

「コロナの影響もあり、1・2年目はもしかしい部分もありましたが、その知見やお客様からのご意見を活かし、少しずつブラッシュアップできたと思います。3年目よりPR方法を変えて、専用のランディングページを作成したりSNS広告にも注力しました。今後は地域の事業者さんとともに連携を深め、沖縄全体の冬を盛り上げていくコンテンツ作りに繋がりたいと思っています」と、支配人の森垣賢さん。沖縄観光の課題でもある、冬場の集客と夜の経済活動の活性化。夜のピクニックが、一つのキーワードになるかもしれない。

支援年度 令和5・6年度
エリア 本島(名護市・うるま市・北谷町)、久米島、伊是名島、石垣島[R6]

琉球泡盛を旅のテーマに 沖縄文化と地域の 魅力を発信



沖縄泡盛ツーリズム

～Okinawan AWAMORI Distillery Tourism～

泡盛ガイドの案内により、蔵内や醸造所見学と、周辺地域の歴史、自然、文化体験を組み合わせたツアー。泡盛ファンが何度もリピートしたくなる内容。

基本情報

主 催 者：沖縄県酒造組合(沖縄県那覇市港町2-8-9)
098-868-3727
エ リ ア：本島(名護市・うるま市・北谷町)、久米島、伊是名島、石垣島他
タ イ プ：蔵により異なる
料金所要時間：①蔵と地域を巡る「周遊型ツアー」／3時間30分～
／13,000円(税込)～ ②蔵見学のみの「蔵見学
ツアー」／1時間～／1,100円(税込)～
最少催行人数：1名～
想定対象：関東近郊在住、沖縄観光リピーター。35～45歳の夫婦またはグループをメインに、40～50代の健康を意識する男女。沖縄の地酒に興味がある外国人観光客
U R L：https://okicon.jp/content_r5/okinawa-awamori/
https://okinawa-awamori.or.jp/

テロワールを伝え
泡盛ファンを増やしていく

沖縄の地酒である泡盛。沖縄県酒造組合では、蔵がある地域と連携する「泡盛ツーリズム」をコンセプトとした観光コンテンツを造成した。企画の経緯を、専務理事の新垣真一さんに聞いた。

「ウイスキーで有名なスコットランドでは、蔵見学が収益の柱の一つになっています。泡盛もそういう存在に育てていきたいと思いました」。

無料の蔵見学や試飲を実施している蔵元は多く、有料化するにはそれだけの価値がある内容に仕上げる必要がある。1年目は、蔵元がある地域の観光資源の掘り起こしを行った。2年目は、泡盛の知識と地域の蔵の情報を豊富にもち、案内ができる泡盛ガイドを養成。インバウンド向けに、通訳案内士を2名、泡盛ガイドとして認定した。

「今後は地域の食材の収穫体験なども組み合わせ、この地のテロワールを感じていただく内容にブラッシュアップしたいと思っています。地域内を周遊することで泡盛の文化的価値を伝え、リピートとともに地域への貢献にも繋がれば」と同組合の新垣さん。

沖縄には46の蔵元がある。参加蔵元を増やし、泡盛ツーリズムが沖縄観光の柱になることを目指している。

支援年度 令和5・6年度
エリア 本部町

町を丸ごとテーマパークに！ ロゲイニングで 地域の魅力を掘り起こす



もとぶヒューマン ツーリズム

～沖縄むとぅぶ美ら海ふれあいロゲイニング～

海、山、絶景スポットや琉球王朝時代の遺跡など町内の見どころを回り、得点数を競う。訪問先で地域の人とふれあえることも魅力。ゴール後は食事によるもてなしや、高得点獲得者にプレゼントを用意する予定。

基本情報

主 催 者：株式会社沖縄美ら島フードサービス
(沖縄県国頭郡本部町山川643-3) 0980-43-5553
エ リ ア：本部町全域
タ イ プ：現地発着受託型ツアー
所要時間：5時間～
料 金：3,000円～
最少催行人数：1名～
想定対象：修学旅行生、企業研修、民泊の学生やファミリー、インバウンド観光客
U R L：https://okicon.jp/motoburogaining/

地域とのふれあい
滞在型観光の実現を目指す

ロゲイニングとは、制限時間内にエリア内に設定されたチェックポイントを巡り、得点数を競うアウトドアゲーム。株式会社沖縄美ら島フードサービスと一般社団法人本部町観光協会は、共同事業として町内の見どころをロゲイニングに取り入れたコンテンツを造成。本部町のバラエティに富んだスポットの魅力を発信し、滞在型観光の町へと発展させていく取り組みを行っている。

「チェックポイントで地域の人にガイドをしてもらうとポイントが加算され、飲食店で使えるクーポンも付けました。これにより、参加者と地元の人とのコミュニケーションがとりやすくなりました」と代表取締役の渡名喜朝之さん。

今後は町全体を網羅したプログラムとして完成させ、旅行会社、民泊などと連携した集客を目指す。一度に多くの人が体験可能なため、修学旅行などの団体をメインのターゲットと考えている。民泊の農業体験などと組み合わせれば、町内での宿泊数増加が期待できる。今後の課題は運営スタッフの教育。町が認定したガイドを活用し、本事業のサポート終了後には、自主運営可能なコンテンツとして完成させることが目標だ。

支援年度 令和6年度
エリア 沖縄市胡屋、越來、知花地域

琉球文化の謎解きにチャレンジ！ 街歩きが楽しくなる 体験型ゲーム



琉球謎解紀行 in沖縄市

～歴史と文化を巡る謎～

歴史的スポットや観光スポット、商店街に隠された謎を解きながら巡る。日時を指定されないため参加者の自由度が高い。街の魅力を深く知ることができだけでなく、ショッピングやカフェ巡りも楽しめる。

基本情報

主 催 者：一般社団法人沖縄市観光物産振興協会
(沖縄県沖縄市上地1-1-1 コザミュージックタウン106)
098-989-5566
エリア： 沖縄市胡屋、越來、知花地域
タ イ プ：自由参加型(キット購入)
所要時間：2～4時間
料 金：1,500円(冊子・マップ代)
※沖縄市観光物産振興協会にて販売中
最少催行人数：1名～
想定対象：親子連れ、グループ、修学旅行生、謎解きファン、街歩きが好きなリピーターなど
U R L：https://www.koza.ne.jp/column/n2803312.html

ゲーム感覚で街を周遊し
歴史と文化の魅力を再発見

地域資源を活用した観光コンテンツ構築にあたり、全国に約500万人のファンがいるといわれる謎解きゲームを活用したのが、一般社団法人沖縄市観光物産振興協会だ。琉球文化が色濃く残り、ノスタルジックな街並みを目的に訪れるリピーターも多い沖縄市。ゲーム感覚で巡ることで、地域の特色や歴史・文化を楽しみながら滞在時間の延長に繋げることができる。これにより飲食店などの利用による経済効果も期待できる。

「従来の有人ガイドより、自由度を高めました。1日ですべての謎を解いてもいいし、何度かに分けてということであれば、リピートにも繋がります」とコンテンツ開発を担当した渡久山環さん。

謎が隠されているのは、琉球文化の遺跡であるグスクやエイサー会館、飲食店とショップが集中するコザの商店街など。街全体を謎解きすることにより好奇心が刺激され、歴史や文化に入り込める内容になっている。

本事業を活用し、マップや冊子といったツールを制作したことで、コンテンツ作成に弾みがついた。今後は、エリア内の宿泊施設や商店との連携強化を図り、沖縄市全体の活性化に繋げることを目指す。

支援年度 令和6年度
エリア 伊平屋島

今ある資源を磨き直して新たな観光コンテンツに 島の未来を豊かにする SDGsなプログラム



伊平屋の自然・伝統文化・人× ウェルネス×SDGs

かつて村祭りで行われていたサバニを修復して行う伝統漁業体験、島の女性に教わるクバの傘作り、大人向けの民泊など、人と自然の豊かさを体験する。島ならではの資源を活用した、ウェルネスで持続可能なプログラム。

基本情報

主 催 者：あいあいゆいまる株式会社／アデリープランニング株式会社（沖縄県島尻郡伊平屋村字野甫56-2）
090-3817-2327
エ リ ア：伊平屋島
タ イ プ：現地発着募集型ツアー
所要時間：3時間～
料 金：5,000円～
最少催行人数：2名～
想定対象：離島体験に興味をもつ大人とその家族
U R L：https://www.iheyasmile.okinawa

島の人の幸せと観光客の
幸せを両立するコンテンツ

沖縄最北端の有人離島・伊平屋島では、今ある観光素材とともに埋もれている資源を磨き直し、ウェルネスとSDGsを両立させるコンテンツを目指している。企画立案と運営を担当する、あいあいゆいまる代表・大友洋一さんに開発の経緯を聞いた。

「島には他の離島では見かけることが少なくなったクバ（ピロウ）畑や、水田風景が今も残っています。この自然とともに島の人と触れ合うことで、心と体がリフレッシュし癒されるコンテンツができると思います。また、島を離れた若い人たちが帰ってきて活躍できる仕事を新たに提供し、島の文化や暮らしを持続する仕組みを作りたい思いもあります。」

テーマは大人の離島体験で、民泊が基本。木造船のサバニを修復して、沖縄伝統の追い込み漁を体験するプログラムも提供する。一部のコンテンツは島の漁師や職人と連携し実施しているが、これらを繋げた滞在プログラムとしての完成を目指している。

「オンラインで予約できるシステムを準備しています。今後は小さくても私たちの取組みに共感してくれる旅行社とも連携していきたいと思っています。」

支援年度 令和6年度
エリア 大宜味村

“長寿の村”の魅力を世界に発信 ツアー化することで 地域の暮らしを守る



大宜味村における ブルーゾーン集落滞在

民泊を利用するインバウンド向けの1泊2日のツアー。通訳と集落の歴史や文化、生活習慣を熟知した地元ガイドが同行し、集落内の案内や自然体験、もの作り体験などのプログラムを提供。やんばるの自然とともに、沖縄ならではの集落文化に触れられることもポイント。

基本情報

主 催 者：株式会社地域ブランディング研究所（沖縄県那覇市牧志2-17-27-401）
エ リ ア：国頭郡大宜味村
タ イ プ：募集型ツアー
所要時間：1泊2日
料 金：10万円～
最少催行人数：2名～
想定対象：ウェルネス志向の欧米豪40～50代、観光化されていない沖縄に興味をもつ20～30代
U R L：https://chibra.co.jp/

集落文化に触れる
インバウンド向けツアー

自然と共存する長寿の村として海外からも注目されている大宜味村。集落の暮らしと文化を守りながら、地域に経済効果をもたらすことを目的にコンテンツを造成したのが株式会社地域ブランディング研究所だ。これまでもNPO法人おおぎまるごとツーリズム協会と連携し、民泊の提供を行ってきたが、よりニーズに応じたコンテンツ開発の必要性を感じたという。

「これまで、海外からの旅行者が長寿の方に会うために、集落内に入ってくることもありました。地域の人の暮らしを守りながら、来訪者の満足度を高めるためには、同じ思いを共有する事業者と連携し、大宜味村全体のブランドとしてコンテンツを磨きあげていくことが大切です」と同研究所の上原知也さん。

本事業を活用したモニターツアーでは、国内在住の外国人が2泊3日の滞在プランを体験。沖縄の歴史や文化とともに、この地域を熟知する通訳が同行し、やんばるのトレッキングや芭蕉布の織り、農業体験などを提供した。

今後は海外の富裕層をターゲットとした旅行社と連携し、本コンテンツの趣旨に賛同する旅行者に向けて、情報発信していきたいと考えている。

支援年度 令和5・6年度
エリア 本島全域

沖縄の歴史・文化・自然をギュッと凝縮 体験型バスツアーの 新しい楽しみ方を提案



沖縄タマテ箱♪ トワイライトナイトエコノミー ～若手芸能家×星空案内の饗宴～

文化・芸能体験と星空観測を組み合わせたバスツアー。世界遺産、琉球歌碑などを訪問し、若手芸能家の琉球演舞を鑑賞。ワークショップと夕食後は、通常では夜間入場ができないスポットで沖縄の星空を鑑賞する。

基本情報

主 催 者：株式会社セルリアンブルー（沖縄県那覇市曙2-24-13 曙沖商ビル6-A）098-941-6828
エ リ ア：本島全域
タ イ プ：募集型バスツアー
所要時間：約5時間
料 金：12,800円～19,800円（夕食付き）
最少催行人数：20名以上
想定対象：30～50代。沖縄の文化・歴史を通じた体験に興味がある層、本物体験を求めるインバウンド観光客
U R L：https://okicon.jp/content_r6/serurian_blue/

着地型の旅行商品を開発・販売している株式会社セルリアンブルーでは、文化的な体験と星空観測を組み合わせたバスツアーを商品化した。その経緯を事業部長の東江優さんに聞いた。

「沖縄全体の魅力を発信するには、得意とする海関連だけでなく、歴史や文化を活かしたツアーや、夜のコンテンツを充実させる必要があると思いました。活動の場を求めている若手伝統芸能家を支援する目的もあります。」

本事業エントリーの1年目は、世界遺産の識名園などでは、創作琉球演舞と、琉球料理を組み合わせたモニターツアーを実施。「何か体験できる内容がほしい」との意見をもとに、2年目はワークショップと夜の星空観測を組み合わせた。今後は温かい飲み物やブランケットを用意するなど、さらにブラッシュアップして商品化していく予定だ。

「ホテルやレストラン、事業者間で連携すれば、沖縄全体で、さらに多種多様な魅力的なコンテンツができると思っています。」

沖縄観光の動向を常に最前線で見ている東江さんは、他事業者のコンテンツにも注目し、新たな連携の可能性を模索している。

支援年度 令和6年度
エリア 久米島

人の魅力と手作りの感動で大切な1日を祝う 世界でたった一つの バースデー旅



誕生日は久米島で！ 島まるごとBirth Dayツアー

バースデーコンシェルジュが誕生日を迎える主役に合わせて、オリジナルプランを作成。最終日は滞在中に関わった島の人たちが、貸切ライブで祝ってくれる。その様子を後日、ラジオで聴けることもポイント。

基本情報

主 催 者：FM久米島株式会社（沖縄県島尻郡久米島町字仲泊730 久米島町具志川農村改善センター2階）
098-985-2770
エ リ ア：久米島
タ イ プ：現地発着型ツアー
所要時間：1泊2日または2泊3日
料 金：1人5万円
最少催行人数：1名～
想定対象：誕生日を迎える人 および お祝いしたい人
U R L：https://birthday-tabi.com/

島の人のこそ最大の観光資源
FM局の情報力を活かす

久米島では、地域密着型の情報を発信するFMラジオ局が、観光コンテンツ開発に乗り出した。

「誕生日をキーワードにすれば365日チャンスがあり、閑散期の集客に繋がると考えました。ラジオ局にはディープな情報とともに、魅力的な人が集まっています。その魅力が伝わる、久米島にしかないコンテンツを目指しています」と話すのはラジオパーソナリティで企画と運営管理を担当する小田部早苗さんだ。

誕生日を迎える人がいる家族を対象としたツアーは、旅行中に誕生日を迎える主役を、島をあげて祝うというもの。事前に聞き出した内容をもとに、バースデーコンシェルジュがオリジナルの体験プランを作成。ツアー最終日には貸切ライブで盛大に祝ってくれる。また、ラジオ番組にゲスト出演し、後日オンエアを聞いた参加者からは、「感動が蘇り再訪したくなった」との感想が寄せられたという。

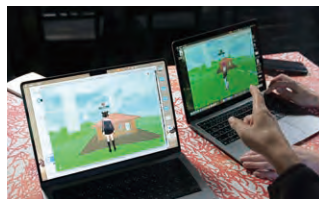
地域の情報力とともに、これらを繋いでいけるのがFMラジオ局の強み。またモニターツアーを通じて自分のためのごほうびバースデー旅の可能性が見えてきた。今後はターゲットごとの新たなアプローチ方法が課題だ。

支援年度	令和5・6年度
エリア	石垣島

バーチャルとリアル体験の 組み合わせが楽しい

遊びながら学べる親子向けの 学習観光コンテンツ

インターネット上に構築された「メタバース石垣島」と、リアルな体験を組み合わせた観光コンテンツ。知的好奇心を刺激する内容でリピーターの獲得とともに島の魅力を広く発信していく。



ネット上の仮想空間とリアルな自然体験を組み合わせることで、より好奇心が刺激され、知識がさらに深まる。



渡辺仁史さん(右)と、代表の村上佐恵子さん。

3ステップの学びと体験を 親子共通の思い出に

場所と時間を選ばず、世界中どこへでも旅ができるメタバース観光。特定非営利活動法人うみもりそらでは、これにリアル体験を組み合わせたコンテンツを造成中だ。法人設立に携わった渡辺仁史さんは工学博士で、代表の村上佐恵子さんも一級建築士。建築の専門家が、観光コンテンツ開発を手がけた経緯と目的を聞いた。

「家族の病氣療養で東京と石垣島の二拠点生活を経験し、島の気候と自然にとっても癒されました。そのお返しに島の子どもたちのために何かできないかと思ったとき、『一緒にやりましょう』と提案してくれたのが同じ大学の卒業生の村上さんたちです。当初はボランティアでしたが、おもに離島の子どもたちに立体でものごとを考える場所や機会を作ることを目的に、2011年から人間の五感をテーマにしたワークショップを5年にかけて開催し、2019年にはNPOとして登録。次の活動と考えたとき、時代に合わせたバーチャル空間を作っ子どもたちを楽しんでもらうアイデアが生まれました」と

渡辺さん。

石垣島には豊かな自然と文化がある。島内だけでなく、島の外の子どもたちにもこの島ですばらしい体験をしてもらいたいとの思いから、学びと体験の場として観光コンテンツの開発を考えたという。「メタバース石垣島」と名づけた仮想空間には、地形とともに森や海、動植物を再現。たとえばアバターになってマングローブの森に入り込み、鳥の鳴き声を頼りに近づいていくと、八重山諸島で見られる渡り鳥アカショウビンを見つけることができる。実際に島を訪れ、キャンプ場で本物のアカショウビンを見つけたときには、よりリアルな感動に繋がる。

メタバースで事前学習することで、仮想空間と現実を行き来しながら、島の自然についてより深く学べる内容だ。さらに絵本やパズル、野菜クレヨンなどの知育玩具の開発にも、本事業を活用した。

「島外のご家族にモニター体験してもらったところ、子どもたちの目から見る石垣島がとても新鮮だっただけでなく、お母さんたちがものすごく楽しそうだったんです。都会の人が親子で石垣島の自然を学んで感動を共有すること

メタバースを活用した ファミリー向けの学習型観光

インターネット上の仮想空間で事前学習した島の自然や文化を、実際に島を訪れてリアルに体験。終了後に再び仮想空間で追加学習する、3ステップのプログラム。遊びの中に学習の要素を取り入れることで、学習意欲の高い親子の好奇心を刺激する内容。

基本情報

主催者：特定非営利活動法人うみもりそら
(東京オフィス:東京都新宿区大久保2-17-34
石垣島オフィス:沖縄県石垣市野底889-1)

エリア：石垣島など八重山諸島

タイプ：ハイブリッド型(現地発着、旅マエ、旅アト参加)

所要時間：90分から2日間(プログラムによる)

料金：金：3,000～15,000円

最少催行人数：2人

想定対象：県内外のファミリー層、修学旅行生

URL: <https://www.umimorisora.com/>



メタバース
体験はこちらから

で、いっそう魅力的な体験を生み出せることが分かりました」と代表の村上さん。

メタバースでは、離れた場所にいる人と空間を共有することも魅力。メタバース上に集まった子どもたちが、石垣では一緒に学んだり遊んだりできるというわけだ。体験終了後はもう一度メタバース上に集まり、追加学習ができる3ステップとしたことも特徴。写真の共有や意見交換を通じて学びが続き、また、親子で体験して共通の思い出ができることで、学習意欲の高

い親子のリピーターを増やしていきたいと考えた。

「今後は、集客方法とシステムの維持が課題です。修学旅行や学校のプログラムとして提供したり、島内の観光事業者さんや商店街とも連携すれば、需要が高まってくるはず。サイト上に広告を掲載するスポンサー企業にも期待しています」と村上さん。

他の離島での活用や他事業者との連携など、沖縄の魅力を発信する観光コンテンツとして、新たな展開に繋がる可能性を秘めている。